

秋 分 儀 式

I O S 儀式魔術文書 AE07A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。2007年の秋分点通過は、9月23日13時03分(日本標準時)である。

儀式内容は、起誓言の公式を利用して秋分の祝祭を実施する。

1 魔術言語の解析

(1) 魔術の文法

魔術の呪文には、ある特徴がある。

たとえば『グリモワール・ヴェラム』の「剣の招請」(conjunction of sword)を見ると、

「われ汝を招請す。おお、剣のなかの剣よ。
聖なる三つの名前 [NN、NN、NN] により。
あらゆる魔術作業において、わが要塞となり、
見えるもの、見えざるもの、すべての敵からわれを護りたまえ。
大いなる名前シャダイにより、そして三つの名前 [NN、NN、NN] により。
最初にして最後のもの、知恵、径、生命、徳、長、唇、ことば、輝き、光、太陽、泉、栄光、
山、門、葡萄酒、石、杖、司祭、不滅のメシアたる剣よ。
わが全ての行いにおいて、われに敵対するものを支配し、明らかにしたまえ。アーメン。」

文中の [NN、NN、NN] には、いわゆる三つの「野蛮な名前」が入る(「エヌエヌ・・」と発音する訳ではない。)。

もうひとつ『魔術パピルス文書』から有名な「頭なき者の召喚」を示す。⁽¹⁾

「われ汝を召喚す、頭なき者よ。地と天を創りし者よ。夜と昼を創りし者よ。
汝は光と闇の創造主なり。汝は、[Osoronnophris]、未だ人間の見ざりし者。
汝は、[Iabas]、汝は、[Iapos]、正と不正を見分けたり。女と男を分かちたり、
種と果実を生みたり。人を互いに愛しあい、憎みあうべく創りたり。
われはモーセ、汝の預言者、汝の密儀、イスラエルの儀式を司る者なり。
汝は湿と乾をあらわし、あらゆる食物を生みたり。
わが声を聞け。われは [Paphro Osoronnophris] の天使なり。・・・」(PGM V.99-115)

今度の [] の中にも奇怪な単語が入っている。名前 [Osoronnophris] は、オシリス神の古名「アサール=ウン=ネフェル」が転訛したものだが、『魔術パピルス文書』の中には、原型を推測できないほど壊れたものや、[ACHCHO'R ACHCHO'R ACHACHACH PTOUMI CHACHCHO' CHARACHO'CH CHAPTOME' CHO'RACHARACHO'CH APTOUMI ME'CHO'CHAPTOU CHARACHPTOU CHACHCHO' CHARACHO' PTENACHO'CHEU] のように、ある種の法則性をもつ変形を遂げた単語もある。

これらの不可思議な単語や名前を「魔術的名前」(voces magicae)と言う。

魔術的名前を含む呪文、または公式(Formula)には、次の二種類のセンテンスが混在する。

- ：意味の取れる文脈を構成する単語の集団
- ：意味不明か、文脈を構成しない単語の集団

前者は呪文全体に意味を与える。これは術者の精神に、作業の枠組みとして働く。要するに、今から「愛の魔術」を異性に投げかけようとしているのか、敵対者の攻撃にバリヤーを築こうとしているのか、作業の内容について、術者の「目覚めた意識」に呼びかけている。

それによって、魔術的エネルギーを放出する径路が定る。

(1) Hans Dieter Betz, *The Greek Magical Papyri in Translation, Vol.1*, Chicago : University of Chicago Press, 1986, P.103.

後者の目的は何か。それ自体では意味を持たない長大な「単語列」は、どのような機能を持つのか？

レベッカ・レセスは、ヘハロート文書を調査して、呪文の二層構造を検証した。⁽²⁾
レセスによるとヘハロート文書の呪文は、次の二種類の構文から構成される。

- ： 慣用句 (locutions)
- ： 非慣用句 (illocutions)

「その後、かれは始め命じた。かれ自身に、42文字の名前で封印をするために。
そは [QHThY VH HH SNTQQ RVThTh HVR HIH PPNN
HIH VH VH AG QS IHIH] なり。
すべての文字に君臨し、万物の恐れるもの。すべての天の守護者たちに、喝采を、恐れを、
戦慄を与えるものなり。」(ヘハロート文書番号 § 625)⁽³⁾

慣用句で構成された部分は、「42文字の名前」の補足的な意味を付加する。しかし、「42文字の名前」の翻訳ではない。

レセスは非慣用句で構成された「42文字の名前」のみが天使へ直接作用するが、他の慣用句の文章は、力の名前を強調し、明確にする作用があると分析した。

別の呪文では、神名、天使名のほかに意味不明の非慣用句が出てくる。

たとえば文字の組合せからなる次の無意味文字列などである。

[IHVH IV IHVH VV IHVH HV HV IHVH IH HIH
IHVH HI VHII HIV HIH IH IH HHV<IH>IIH
HVH IH IHVH IV HI] (ヘハロート文書番号 § 637)⁽⁴⁾

この文字列は「清浄の言語」と呼ばれる。

従って、レセスはこの論文において呪文の構成要素を最終的に3種類に分類した。

- ： 慣用句
- ： 神聖名 (神名及び天使名) である非慣用句
- ： 以外の非慣用句

と は、呪文の目的に沿って天使を個々に動かす力を持っている。従って、「力の名前」となる。

しかし、意味の明確な文章を作る と は、 の神聖名同士を結びつけたり、 と の意味不明な非慣用句を関連づけたりし、呪文全体により一層の強制力を与えると結論した。

レセスの分析した「ヘハロート文書」は、ユダヤ神秘主義独自の文献であるが『魔術パピルス文書』の影響を相互に受けている。⁽⁵⁾特に魔術的構文については、ほぼ同一であると考えてもよい。従って、陶片呪文などには無意味文字列の連鎖、神名などに続き意味ある単語列が魔術公式を形成する。⁽⁶⁾

さらに、ギリシャ語の魔術的な呪文のなかには、ヘブル語などから転訛し、意味不明のまままたは となったものも多い。

次の有名なギリシャ語呪文をモデルに、文中の非慣用句を と に解析してみよう。⁽⁷⁾

(2) Rebecca Lesses, "The Adjuration of the Prince of the Presence : Performative Utterance in a Jewish Ritual" in *ANCIENT MAGIC AND RITUAL POWER*, Leiden: E.J.Brill, 1995, pp.200-202.

(3) Peter Schafer, *Übersetzung der hekhalot-Literatur IV §§598-985*, tuingen : J.C.B.Mohr, 1991, p.21.

(4) Schafer, op.sit., p.38.

(5) H.D.Betz, "Jewish Magic in the Greek Magical Papyri (PGM vii.260-71)" in *Envisioning Magic*, Leiden: E.J.Brill, 1997, pp.45-64.

(6) John G. Gager, *Curse Tablets and Binding Spells from the Ancient World*, Oxford : Oxford University Press, 1992, pp.110-112.

(7) Gideon Bohak, "Hebrew, Hebrew Everywhere ? : Notes on the Interpretation of VOCES MAGICAE," in *Prayer, Magic, and the Stars in the Ancient and Late Antique World*, Pennsylvania : Pennsylvania State University Press. 2003, p.75.

アドナイエ エロアイエ サバオース
おお、主よ エロアイオス 万軍の主よ

エイエ エサル エイエ
われは有りて有る者（エヘイエー・アシェル・エヘイエー）

ソウラ アルバルティアオー オン オン オン ソン カロス
ソウラ アルバルティアオ は、 は、 は 生きて 特筆すべき

エリヨン アノラ アギボール
至高者 畏るべき 無敵の

このなかで に属するものは、「聖なる名前」（sacra nomina）と総称されるが、ほとんどが「神聖名」（シェム・メフォラシュ）である。

上記の は本来は聖なる名前ではないが、転訛して意味不明となった非慣用句は、ギリシャ語圏の術者にとっては、少なくとも「野蛮なる名前」として機能する。

（２）名前の力

何故、「聖なる名前」は力をもつのか？

オリゲネス（c185-c254）は、聖なる名前は変更されてはならず、その正しい発音で発声されたときのみ効果を有するとしている。従って、他の言語への翻訳など論外である。⁽⁸⁾

ある言語はそれ自体に力があるという信仰がある。

古典古代末期の呪文には、ヘブル語やギリシャ語からの音訳がよく用いられた。その主体は神聖名である。一例を示すと、ヘブル語からはアドナイ、インマヌエル、メシアー、ギリシャ語からはヘブル語の口にするのも憚る神の名前テトラグラマトン、ハギオス、オン、ソテル、テオス、ラテン語のデウス、ドミヌスなどである。⁽⁹⁾

それら神聖名は固有の神話の枠組みのなかで機能する。

その最たる例としては、『出エジプト記』の燃える柴の逸話のなかにある神の名前のくだりである。

「民が『その名は何といわれるか』と問うたとき、いかに答えるべきや。

神はモーシェに言われた『われは有りてある者』。

イスラエルの子らにこう答えよ。『「われは有る」という方がわたしを使わされた。』」

（『出エジプト記』3章13-14）

しかし、タルグム（旧約聖書のアラム語訳）の一節はこのように補足されている。

「民が『その名は何といわれるか』と問うたとき、いかに答えるべきや。

神はモーシェに言われた『われは有りてある者』。

イスラエルの子らにこう答えよ。『初めにありし世界に、存在せよと命じ、それ故に世界が存在しうる声を発せし方がわたしを使わされた。』」

（『タルグム・ノエフティ』における『出エジプト記』3章13-14 関連部分）⁽¹⁰⁾

ヘブル語の神の名前と対応する創世神話の物語とを不可分に溶融させるつながりが存在する。この神聖名は、土器の内側に書かれようと、人の声で唱えられようと、それと認知した瞬間に創世神話の力を発揮するのである。⁽¹¹⁾ もちろん、『旧約聖書』に慣れ親しんだ文化環境に育った者なら、その効果は戦慄すべきものがあるだろう。

(8) Richard Kieckhefer, *Magic in the Middle Ages*, Cambridge : Cambridge University Press, 1989, pp.39f.

(9) Don C. Skemer, *Binding Words : Textual Amulets in the Middle Ages*, Pennsylvania : Pennsylvania University Press, 2006, p.112.

(10) Naomi Janowitz, *Icons of Power : Ritual Practices in late Antiquity*, Pennsylvania : Pennsylvania University Press, 2002, p.21f.

(11) Janowitz, op.cit., p.26.

ユダヤ教神秘主義においては、神聖名は「外在する名前」(Explicit Name)と呼ばれる。ヘブル語では、語幹「פִּתַּח」(説明する／明白にする／外在する)からなる「פִּתְּחָנוּהָם וְנִשְׁמָעוּ」(シェム・ハ・メフォラシュ)である。ヘブル語のメフォラシュという受動態の分詞には、「発音された」、「周知の」、「明瞭に表現された」という意味があるが、同時に文脈上は「切り離された」または「隠された」という意味になる場合がある。従って、シェム・ハ・メフォラシュは「(発音され)外在化した名前」であると同時に「(隠され)内在化した名前」という二義性が存在する。⁽¹²⁾

これらの「外在する名前」には、固有のイコン的な力がある。⁽¹³⁾

ユダヤの神秘家たちは、その力を創造の源泉と結びつけた。

「深淵を閉じ、力強く誉れある御名により封印せし者よ」(『マナセーの祈り』3節)⁽¹⁴⁾

ユダヤ教カバリストたちはテトラグラマトンを神の本名、つまり、シェム・ハ・エツェムとし、アイン・ソフによる爆発的な世界の流出のなかで、他のすべてのシェム・ハ・メフォラシュが生まれ、言葉はアイン・ソフの流出のエネルギーを凝縮して内包し、言葉が発せられる都度、そのエネルギーを自己展開すると解釈した。⁽¹⁵⁾

シェム・ハ・メフォラシュ以外の神聖名／外在する名前についても、言葉の本来の意味が不明であってさえ、人の心を激しく揺さぶる力を持っている。

「KOMPHTHO KOMASITH KOMNOUN (コムフソー コマシース コムヌーン)

世界を叩き揺さぶる者よ。」(PGM IV.1323)⁽¹⁶⁾

『ライデン・バピルス』の研究で知られるフランシス・L 1・グリフィスは、この『魔術バピルス文書』の神聖名を、コプト語の「大地を揺さぶる者、地表を揺さぶる者、深淵を揺さぶる者」だと解釈した。しかし、その名前をもつ神が、実際に信仰されていた訳ではない。

しかし、神聖名として術者たちに広く認知され、流布した名前は力をもつ。それは前出のユダヤ教の「外在する名前」と同様に、アンリ・コルバンの言う「第2の神顕現」つまり、「神聖名」と「属性」の顕現が行われた際に、特別な力が神聖名に封印されるからである。⁽¹⁷⁾

神聖名、とりわけ国際的に認知された神聖名は、明確な意味をもたなくとも、その代表する神聖力を儀式のなかで発動するのである。⁽¹⁸⁾

一方、レセスの言う「神聖名以外の非慣用句」についてはどうか？

他の言語からの音訳で意味不明になったものは、オリゲネスの言うように不十分な力しか有していないだろうが、実は言葉になる前のゴエティアーについては、原初の力を有している。

プロティノスは、当時の墮落した魔術を非難しているが、そのおりに魔術師が使った技法について「声とともに節回し、叫び声、息使い、歯擦音を使う。」⁽¹⁹⁾と述べている。

しかし、これらは通常の発声だけでは発音できない「野蛮な名前」を用いるときの補助手段であった。実のところ、神聖名でさえ、上記の補助手段を用いて使われることがある。

しかし、ゴエティアーは辻占師の発音のテクニックではない。その力は、儀式的哀悼、治療、神占術などとゴエースの恍惚の精神状態を組み合わせたものである。⁽²⁰⁾ シェファアーは、メルカ

(12) ゲルショム・ショーレム 「神の名とカバラーの言語理論」 『エラノス叢書 9 言葉と創造』 平凡社、1995年、92-93頁。

(13) Janowitz, op.cit., pp.28-31.

(14) The Prayer of Manasseh, in *The Old Testament Pseudepigrapha, Vol.2*, New York : Doubleday, 1985, p.634.

(15) ショーレム、前掲書、124頁。

(16) Hans Dieter Betz, *The Greek Magical Papyri in Translation*, Vol.1, Chicago : University of Chicago Press, 1986, P.63.

(17) コルバンはイブン・アルアラビー学派の見解として、第一の神顕現を本質の顕現、第二を神名と属性の顕現、第三を存在の光／神名としての顕現にまとめている(アンリ・コルバン 「一神教のパラドクス」 『エラノス叢書 6 一なるものと多なるもの』 平凡社、1991年、136-137頁。)。

(18) Naomi Janowitz, *Magic in the Roman World*, London : Routledge, 2001, p.52.

(19) 『プロティノス全集』第2巻(『エネアデス』 9-14)、中央公論社、1987年、136頁

(20) Fritz Graf, *Magic in the Ancient World*, Cambridge : Harvard University Press, 1997, p.24.

バ神秘主義においてもトランス及びエクスタシーの重要性を指摘している。⁽²¹⁾ エリアーデがシャーマンとエクスタシーの不可分としているが、ゴエースなどの技法はシャーマン的なものであると言うこともできる。

(3) 有意味文の構造

古代ギリシャの封縛呪文 (binding spell、ギリシャ語では κατάδεσμος (カタデスモス) と、ラテン語では defixio (デフィキシオ) という。) を研究したクリストファー・ファラオネは、封縛呪法 (defixiones) の文法には4種類の形態があることに着目した。⁽²²⁾

直接公式 (direct binding formula)

封縛師 (defigens) は目標となる人 (神) 格、或いはその身体器官の一部に「われNNを封縛せん。(καταδῶ τον δεινα)」と直接的に働きかける。

祈祷公式 (prayer formula)

封縛師は、神やダイモーンを召喚し、封縛と同様な他者への命令を繰り返し懇願する。

「NNを拘束せよ。(κατέχετε τον δεινα)」と命令する。

祈願公式 (wish formula)

封縛師は、祈願法の文法を用いて祈願する。

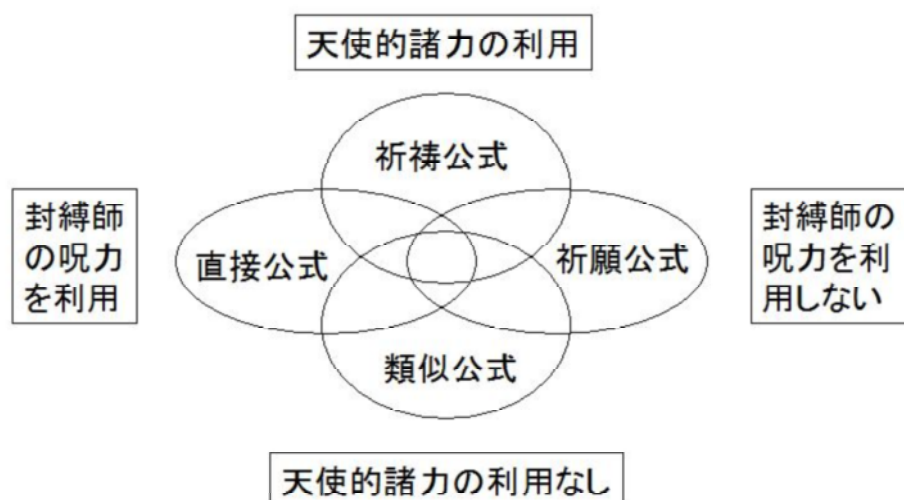
「NNに成功がもたらされるように。(ὁκό δεινα ἀτελή)」

類似公式 (similia similibus formula)

封縛師は、類比的文法を用いて説得する。

「この屍が冷たく生命に欠けるように、NNも冷たく生命に欠けるように。」

それぞれの公式の関係を封縛という作用果をもたらす最大の作用因を表示し、図式化すると下図のようになる。



中央の楕円がそれぞれの公式 (formula) を示す。

直接公式は封縛師のもつ呪力または魔術的確信から流出するマナを原動力としている。従って、この公式を多用すると封縛師は消耗する。

祈祷公式は天使的諸力を召喚し、その力で封縛を成功させる。そのため適当な諸力をあらかじめ選考する必要がある。

祈願公式は封縛師の呪力ではなく宇宙の法則に訴えかける。

類似公式は、「似たものが似たもの (similia similibus) に作用する」法則を利用した一種の類感魔術である。

しかし、すべての公式が単一の作用因により動いている訳ではない。

(21) Peter Schafer, *The Hidden and Manifest God*, New York : State University of New York Press, 1992, p.155.

(22) Christopher A. Faraone, "The Agonistic Context of Early Greek Binding Spell" in *Magika Hiera*, Oxford : Oxford University Press, 1991, pp.4-6.

しばしば、直接公式には神の名前が付される。
「ヘルメス・クトニオスとヘルメス・カトコスの御前において、
われオフェリオンとカセリスを封縛せん。」
従って、さまざまな組み合わせが成立する。

この汎用の公式は『魔術パピルス文書』とその影響を受けた古典古代の魔術公式に敷衍した。

一方、同時代のヘハロート神秘主義のコンテキストには、別の文法が成立する。

ペーター・シェファールの分類によれば、次の八つの公式が存在する。

- 起誓する (to adjure להשביע)
- 招請する (to call לקרוא)
- 探索する (to seek לבקש על)
- 自らを封縛する、封縛される、他者を封縛する
(to bind oneself, to be bound, to bind others להזקיק , להיוזקק , לזקק)
- 名付ける、言及する、発音する
(to name or mention or pronounce להזכיר)
- 天使を使役する
(to make use of the angel בו להשתמש)
- 天使を召喚する
(to bring down the angel להוריד)
- 布告、叙階する
(to decree, ordain לקיים , לגזור)

一方、レベッカ・レセスは、起誓言 (adjuration) の公式を次のように分類した。⁽²³⁾
なお、起誓言 (adjuration) とは天使的存在に強制力のある命令を発する特殊な公式を用いた構文を意味する。

- 直接起誓言 (direct adjuration)
- 祈 禱 (prayers)
- 名前の朗唱 (recitation of the name)
- 名前の計数 (counting the name)
- 説明文のなかの起誓公式 (adjurational formulas in a narrative framework)
- 力の名前の使用 (use of powerful names)

ヘハロート文学において起誓の公式は多用されているが、そこで表現されるのは天使を使役する起誓言だけではない。

ヤーノビッツは、『秘密の書 (セフェル・ハ・ラツィム) 』を例にとり、公式を解析した。
起誓言に該当する部分の代表的な構成は次のとおりである。

- 「聖なるかな、玉座にひとりあるかの名前
- 聖なるかな、陛下の坐す場 (にあるかの名前) よ
- 聖なるかな、生きとし生ける者の口に登るかの名前よ
- 聖なるかな、あまたの被造物の歌 (にあるかの名前) よ
- 聖なるかな、主よ、常永久に」

ヤーノヴィッツによると7階層の詠唱のなかで、第6階層までは起誓言の形式が用いられるが、最高の階層においては起誓言はなく、賛美歌のみが詠唱される。当然ながら天使的存在への要求はない。⁽²⁴⁾

(23) Rebecca Macy Lesses, *Ritual Practices to gain power*, Harrisburg : Trinity Press International, 1998, p.75.

(24) Janowitz, *Icons of Power*, pp.95f.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P C は、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間 (Robing Room) において、光の法衣を纏う。

(2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 魔術の技法的側面

(1) 『秘密の書』の活用

儀式の構成にセフェル・ハ・ラツィムを引用した。⁽²⁵⁾

(2) 封印の受肉

起誓言などを多用するメルカバ神秘主義において、「封印 (קִטְוּת)」は護符 (amulets) に記されて術者が携行するほか、術者の肉体に直接書き込まれる場合があった。⁽²⁶⁾

マーヴィン・メイヤーらは、コプト語呪文の研究のなかで、ギリシャ語の聖なる七母音が神像の胸に入墨されている例を示した。⁽²⁷⁾

バル・イランは、『マセー・メルカバ』の「七の封印」を例にとり、次のように述べた。

「封印がどのように刻印されたか、さだかではない。祈祷する神秘家の四肢に封印が刻印され、神聖なる霊視を得るための不可分的手段となっている。」⁽²⁸⁾

(2) 聖四文字の呼吸

バルディチェブのラビ・レヴィ・イーチャクの見解によれば、聖四文字 קוּנְיָ の前半の二文字 קוּ は「無の性質」を、後半の二文字 נְיָ は「有の性質」を表す。「有の性質」は、われわれが自然界と認知する存在の階層をあらわす。そして、「無の性質」は、霊的世界と認知する存在の階層をあらわす。従って、物質界において קוּ の意識を獲得すれば、物質を超越することができる。

また、ベリマー (קוּמַרְבָּר) という単語は、「なし」という意味のベリ (בָּר) と「何か」という意味のマー (קוּמַ) を結びつけた単語であり、旧約聖書の中ではただ一か所 (『ヨブ記』26章7) に使われている。その意味は「何もものなし」となる。

『セフェル・イエツィラー』においてはセフィロト・ベリマーとして十の原数として現され

(25) Steve Savedow, *Sepher Rezial Hemelach*, York Beach : Weiser Books, 2000, pp.233-254.

(26) Janowitz, *Icons of Power*, pp.79f.

(27) Marvin Meyer, *Ancient Christian Magic*, Princeton : Princeton University Press, 1999, pp.231, 280.

(28) Lesses, *Ritual Practices to Gain Power*, p.317f.

た。その際、ペリマーはアイン・ソフと同義と解釈される。⁽²⁹⁾

従って、この聖四文字の呼吸法においては、ペリマーが世界が流出を開始する以前の「無の性質」に直結し、マーが流出後の「有の性質」を表現する。

呼吸法において、「ㄐ」を詠唱する際は、「ヨー・ヘー」と発声する。瞑想中は、呼吸する音ぐらいの高さで囁く。息を吐きつつヨーと詠唱し、息を吸いしつつヘーと詠唱する。その際は、心中にそれぞれの文字を視覚化する。⁽³⁰⁾

息を吸いながら発音するのは難しいが、無理に大きな声を出す必要はない。その音は術者の心のなかに響きわたれば良いのである。

今回は、すでに境界を跨いだアストラル・ライトのなかで、「無の性質」を象徴するヨド・ヘーの呼吸と「有の性質」を象徴するヴァウ・ヘーの呼吸を併用し、祭壇の上に「有と無の融合」を現出させる。

(3) 黎明視

視覚情報の混乱による幻視「シャルル・ボネ諸侯群⁽³¹⁾」、言語入力での混乱、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作⁽³²⁾）などを利用する。

(4) 呪文の構成

呪歌及び神聖名を使用する。

5 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

今回も、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(29) ゲルショム・ショーレム 「初期カバラにおける聖書の神とプロティノスの神の戦い」

『エラノス叢書 10 創造の形態学』 平凡社、1990年、235-236頁。

(30) Gershon Winkler, *Magic of the Ordinary*, Berkley: North Atlantic Books, 2003, p.30.

(31) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(32) ゲザヴィエ・スロン 『認知神経心理学』 白水社、1995年、63、64頁。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るP Cが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」P Cは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

P Cは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

P Cは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なP Cの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

P Cは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

P Cの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

P Cは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

P C：「I O S の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

P C：「七つの封印を光体に刻印せん。」

P Cは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もP Cの動作に倣う。

P C：聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אֲבִירִים סָסְתִּי)

全員：「わが脚を封じる。」

P C、参加者は剣指を心臓に当てる。

P C：聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」(אבג בגג)

全員：「わが心臓を封じる。」

P C、参加者は剣指を右肩に当てる。

P C：聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」(אר'ם ת'פא)

全員：「わが右腕を封じる。」

P C、参加者は剣指を左肩に当てる。

P C：聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אור'ם תס'י אה)

全員：「わが左腕を封じる。」

P C、参加者は剣指を首に当てる。

P C：聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אבית תל בג אר י'ו ד'ו אל)

全員：「わが首を封じる。」

P C、参加者は両手を胸の前で組む。

P C：聖名とともに「アブ バク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命とすべての部分を守護するために。」(או פאך ק'טר סס אחר י'ד'ד יה)

全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

P C、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

P C：聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」(אורף פת יהו חיו יו זהו יהו ת'תס)

全員：「わが天蓋を封じる。」

P Cは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるP Cの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてP Cの霊的外形が急激に変化する。

P Cが宣言する。

P C：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

PCは東を向いて宣言する。

「I O S の神殿に四方位の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

PCは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風を振るわせる呪歌である。

PC：「エロウイー

('ללל わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

('ב' ואתה ת'שמה ש'ו'ת ב' 汝が授けし息吹よ。)⁽³³⁾

テホラー・ヒー

('ה' טהרה' 所は清浄なり。)

アター・バラター

('א' אתה ב'ר'א אתה 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

('א' אתה י'צר' אתה 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

('ב' אתה פ'ח אתה 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシャムラー・ブキルビー

('ו' אתה מ'שמרת ב'קר'ו また、汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

('ו' אתה א'מד ל'טל'א' מ'מפנ' また、汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員：「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

('א' אתה י'צר' אתה ב'ר'א 創造と形成)」

PCは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

PC：「ヒー・ネイ・ニー

('נ' ה'ה' われはここに)

ヒー・ネイ・ニー

('נ' ה'ה' われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー ('י' ה'ה' ה'ה' われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー ('א' ה'ה' ה'ה' 加護のあらんことを)」

全員：「ヤー・アナ・ホウシーアー

('א' ה'ה' ה'ה' ה'ה' 息吹の加護あらんこと)」

PCはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

PC：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

全員：「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱいに、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

これはエロヒムの影だ。

PCは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

PC：「アーニー・ボー

('ו' ב'ה' われと名前なきもの)

アーニー・ボー

('ו' ב'ה' われと名前なきもの)

(33) 来る (בוא) の変化形 (ב') は、「霊が我がうちに入りたり (ויתבא ב' רוח) 」
(『エゼキエル書』2：2) のように使われる。

エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

全員：「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

南の壁いっぱい、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P C は、祭壇の西に回り、西の方向に天蠟宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われと名前なきもの)
ホゥシーアナ (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われを助けよ)」

全員：「ホゥシーアナ (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われを助けよ)」

P C はヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員：「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱい、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P C は、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C：「アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われと名前なきもの)
アーニー・ボー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל われと名前なきもの)
エレツ・カーナーニー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל カナンの地よ)」

全員：「エレツ・カーナーニー (אֲנִי וְשֵׁם אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל カナンの地よ)」

北の壁いっぱい、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 荒野の顕現

P Cは、祭壇の南に回り、北面する。全員が北面する。
P Cは祭壇に置かれた一枚のタリズマンを取り出し、両手で掲げて北に向け額より高く掲げる。

P C：「ハクバー・アフゥハー (הַקְבֵּה אֶהָה) ⁽³⁴⁾
雷雲よ、来たれ。」

全員：「ハクバー・アフゥハー (הַקְבֵּה אֶהָה)
雷雲よ、来たれ。」



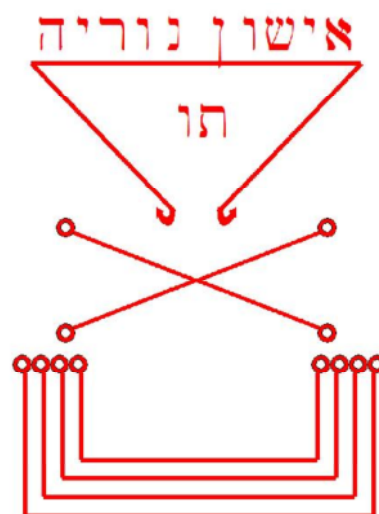
神殿の四方の壁が消失した。
右側から稲妻に照らされた黒雲が吹き上がる。その中に白い蒸気が噴出し、大地から土埃が巻き上がり、雲の割れた隙間から星が姿を覗かせる。

P Cは青いタリズマンを祭壇の左端（西端）に置く。
P C：「ヨーホー・ホー・ホー・イヨーホー・ヤーヤー
(יְהוָה הוּא יְהוָה יְהוָה)」

P Cは祭壇に置かれた二枚目のタリズマンを取り出し、同様の仕草で北に向け掲げる。

P C：「アアアー・ススー (אָאָא סָסָס) ⁽³⁵⁾
静寂よ、来たれ。」

全員：「アアアー・ススー (אָאָא סָסָס)
静寂よ、来たれ。」



雷雲が速やかに退き、荒野がひろがる。

P Cは赤いタリズマンを祭壇の右端（東端）に置く。
P C：「ヨーホーヤー・ヤーホー・イヨーハー・ヒーヤー
・ホーヤー・ヨイハー・ヤーヒー・ハヒーヨー・ホーヒー
(יְהוָה יְהוָה הוּא יְהוָה יְהוָה יְהוָה יְהוָה יְהוָה)」

P Cは祭壇の右の炎の柱のタリズマンに右手を触れ言う。
「タムドは男を風から創造し、東に置けり。」

北東の方角の荒野の地平線に炎の柱がたつ。

P Cは祭壇の左の雲の柱のタリズマンに左手を触れ言う。
「サッドは女を水から創造し、西に置けり。」

北西の方角の荒野の地平線に雲の柱がたつ。

P Cは祭壇の右の炎の柱のタリズマンに右手を触れ言う。
「タァクは男を火から創造し、南に置けり。」

南の方角の地平線が薄明かりに照らされる。

P Cは祭壇の左の雲の柱のタリズマンに左手を触れ言う。
「シェカグは女を地から創造し、北に置けり。」

(34) ハクバーの発音は、Haku ↑ ubah ↓ という風に、アフゥハーの発音はAhhu ↑ hah ↓ という風に中間にアクセントを置き、鋭く上昇し、語尾が消えるように唱える。

(35) アレフの発音は呼吸が抜けるような風の音を、ザメクの発音は蛇が歯の間から音を出すような歯擦音を用いる。

北の方角の地平線が炎と雲の柱のある方角を除き濃い闇に閉ざされる。

P Cが高らかに唄い始める。

P C：「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 汝が導きにわが望みを主よ。)
キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 我が望みを主の導かれるままに。)
シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(לִי יֵשׁוּעַ אֲחִיָּה קְבוּץ שְׂדֵי 主の導きに我が望みを。)」

P C：「サティームー・ヴェ・グー・リィアー (סַתִּימ וְגִי וְרִיָּא)」

全員：「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、炎と煙の柱のたつ、壮大な荒野において完全に無垢の身となったあなたは、秋分の秘儀にあずかる。

P Cは、神殿の北に行き、炎と煙の柱を背負い南を向いて言う。

「この荒野は、光と闇の至聖処なり。
今、荒野の上に秋分の太陽があり、
光は闇と均衡せんとしている。
われは律法の宰相として、
秋分の執行を宣言する。」

8 秋分の主祭

P Cは、神殿の東側から中央を向いて言う。

P C：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

P Cが宣言する。

P C：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

P C：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

P Cは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

P C：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

P Cは、祭壇の東に廻り、西に向かってハーボクラテスのサインを行う。

P C：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

P C：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

P C：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

P C は祭壇の北に行き、南を向く。

P C：「律法の宰相の加護に感謝する。
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

P C は再度、祭壇の西に行き、東を向く。

P C：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (יהוהשין)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (יהושין)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

P C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

P C：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

P C は《ヴェールを閉じる》サインを行う。

P C：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

P C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO A

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCX

秋分儀式 A E O 7 A

Copyrights © All rights reserved I O S 2007

2007年9月17日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。